

新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）

事業名(主)	長崎発信型在住外国人支援プロジェクト
事業名(副) ※任意	長崎市の新型コロナ関連情報の多言語発信

入力数 主 18 字 副 19 字

実行団体名	NPO法人Treasures of The Planet
資金分配団体名	公益財団法人佐賀未来創造基金

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域		分野	
<input type="checkbox"/>	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/>	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
		<input type="checkbox"/>	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
		<input type="checkbox"/>	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/>	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/>	④働くことが困難な人への支援
		<input checked="" type="checkbox"/>	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/>	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/>	⑥地域の働く場づくりの支援
		<input checked="" type="checkbox"/>	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input checked="" type="checkbox"/>	外国人が日本で生活する上で必要な情報へのアクセスの格差を是正する。 特に長崎市の新型コロナ関連脳情報格差を解消する。
------------------------	-------------------------------------	---

入力数 58

SDGsとの関連

ゴール
_3.すべての人に健康と福祉を
_10.人や国の不平等をなくそう
_11.住み続けられるまちづくりを

実施時期	2020年11月 ~ 2021年10月	事業 対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> 長崎市)	事業対象者： (事業で直接介入 する対象者と、そ の他最終受益者を 含む)	長崎市在住外国人	事業 対象 者人 数	3,400人
------	---------------------	------------	---	---	----------	---------------------	--------

I. 団体の社会的役割

II. 事業の背景・社会課題

(1)申請団体の目的
<p>本法人は、支援を必要とする途上国の人々を対象に、彼らと友好的な関係を結び、各地域で交通安全教育、無農薬農地の保全および有効活用事業等を行い、途上国の人々が自分たちの力で、健康かつ安全に、文化や伝統を守りながら、時代の流れに取り残されずに成長できるシステム作り、国際交流の推進に寄与することを目的とする。</p>
(2)申請団体の概要・事業内容等
<p>(A) 特定非営利活動に係る事業</p> <p>①他国地域・多文化の人たちとの友好的交流と日本国内での生活のサポート事業</p> <p>②途上国の子どもの交通安全教育事業</p> <p>③途上国の無農薬農地の保全および有効活用事業</p> <p>④途上国の環境・健康・福祉を改善するための調査・研究事業</p> <p>⑤世界各国の伝統文化を活かしたオリジナル製品の開発事業</p> <p>(B) その他の事業</p> <p>①多国語ホームページ製作事業</p>

入力数 (1) 152 字 (2) 180 字

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
<p>"新型コロナウイルス感染症の広がりにより、テレワーク・遠隔授業・国内外の移動制限やStay Homeが推奨される一方で、学校や職場を含む外出が少なくなり日常生活での人と人のつながりが希薄になりつつある。在住外国人にとっては、母国とは生活習慣・社会制度・母国語も異なる日本において、移動制限により帰国もできない中で地域とのかかわりが減少することは、非常に深刻な問題である。</p> <p>従来は職場や学校で入手できていた生活情報や公的機関への申請書作成、また緊急時の対応に必要な情報が不足したり、助言を受ける機会が激減するなど、特に在住外国人にとっては日常生活を営むことも困難な状況となってきている。加えて、「新しい生活様式」に係る情報や移動制限等、国籍にかかわらず同じ社会に住む全員がその内容を十分に理解し実行することが求められている中で、必要な情報やアドバイス不足により求められる行動をとれないことは、新型コロナウイルス感染予防の妨げ、引いては地域社会への多大なる影響を生じかねない。</p> <p>これら深刻化しつつある社会の課題を緩和し、誰も取り残さず全ての人により安全で安心できる地域づくりが求められている中で、在住外国人に対する生活情報提供の強化は不可欠である。</p> <p>長崎市役所のウェブサイトでは、新型コロナウイルス感染症の検査・予防に関して、英語、中国語、韓国語でも表記されているが、近年長崎市で在住人口が増加してきているベトナム、フィリピン、ネパール人の言語には対応していない。(2019年12月現在、住民基本台帳に基づく長崎市在住外国人人口3,700人中第2位は、ベトナム人586人である。)さらに、新型コロナウイルス感染症によって、在日外国人が遭遇するであろう仕事、住居などの問題への対応に関する情報は記載されていない。</p> <p>そのような状況の中で、NPO法人Treasures of The Planetは、多くの外国人留学生と共に学び、協力してきた実績をもつ長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科の学生たちや、長崎留学生支援センター (https://nagasaki-issc.org/) のスタッフとのネットワークを活用し、長崎市在住外国人が直面している具体的な問題を把握し、支援したいと考えるに至った。</p>

入力数 950

III. 事業内容

(1)事業の概要
<p>長崎市在住外国人たちを対象にインターネット・アンケートや、面談インタビューを実施し、新型コロナ感染症の広がりにより、長崎市在住外国人たちが具体的にどのような問題に直面しているか、生の声を集める。アンケート結果と問題解決方法をまとめた多国語対応ウェブサイトを作成し、運営・管理を行う。</p> <p>ウェブサイトでは新型コロナ感染症に関連する医療施設や福祉関係の情報を多国語で表示し、さらに在住外国人が困っていることや読めない書類などをメールやアプリで受け取り回答する「コトバ助っ人」としての役割も果たし、外国人の情報へのアクセスの格差の是正を目指す。</p>

入力数 269

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
<p>1年間本ウェブサイトを利用した在住外国人にSNSなどを使って彼らのネットワークにウェブサイト情報を拡散してもらい、より多くの在住外国人が本ウェブサイトを利用できるようにする。新型コロナ感染症問題終息後には、在住外国人との関わりが深い日本人たちから、在住外国人との意思疎通やトラブルなどの意見を聞き、在住外国人と地域住民とのコミュニケーションをサポートするサイトに発展させる。本ウェブサイトは、他県や他の団体からもアクセスが可能であるため、長崎で行われている地域活動のPR及び在住外国人支援の在り方のモデルとして、日本中に広がる活動にすることを旨とする。また、現在、長崎地域にて生活する在住外国人が将来的に帰国した際に苦境時でも住みよい町として長崎をPRしてくれることで今後の外国人の流入につながることも期待し、未来の地域づくりの一助となることも目指す。</p>

入力数 375

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<p>1. 情報収集：アンケート調査の実施（対象：在住外国人100人） 長崎市在住外国人から、新型コロナウイルス感染症の広がりにより、生活がどのように変わったか、日常生活で困っている事、改善してほしいことなどをアンケート調査し、長崎市在住外国人が抱えている問題を把握する。</p> <p>2. 情報提供：長崎市在住外国人が困っている事、知りたい情報が多国語で紹介されているウェブサイトを完成させる。</p> <p>3. 広報：ウェブサイトを利用する在住外国人数を広げ、在住外国人をサポートするサイトとして普及させる。</p>	<p>長崎市在住外国人の70%がウェブサイトを利用する。</p>	<p>Google アナリティクスを使い、閲覧状況を詳細に把握する。</p>	<p>年間利用者数2400名</p>	<p>2021年9月</p>

(4)活動	時期
1. 本プロジェクトの趣旨（新型コロナウイルス感染症に関する情報を多国語で紹介し在住外国人の情報へのアクセスの格差を是正し、外国人が長崎県で生活する上で困っている事へのサポートを行うウェブサイト制作）をまとめたチラシ作成。	2020年10-11月
2. 新型コロナウイルス感染症の広がりにより、在住外国人の生活がどのように変わったか、彼らが日常生活で困っている事、改善してほしいことなどの質問事項を記載したアンケートを作成。	2020年10-11月
3. 1,2を記載したウェブサイト作成。	2020年10-11月
4. オンラインサーベイや訪問インタビューによるアンケート調査の実施。オンラインサーベイへの参加については、留学生や企業等に周知協力を依頼する予定。	2020年12月-2021年1月
5. 4の調査結果をもとに、外国人居住者が必要とする情報や困っている事などをまとめる。	2021年2月-3月
6. 5のデータをもとに、特に新型コロナウイルス感染症に関する医療・福祉関係など緊急性の高いものから優先的に英訳し、その英訳を多国語翻訳（中国語、ベトナム語、韓国語、フィリピン語、ネパール語など）して、それらを使いやすくまとめたウェブサイトを作成する。ウェブサイトでは、実際に困っている人たちからの質問や理解できない書類などをメールやアプリで受け取り、翻訳その他の回答をサイト上にアップするサービスを行う。	2021年2月-9月
7. ウェブサイトの紹介、使い方をまとめたチラシを作成し、情報を必要とする人たちに配布する。特に外国人居住者が多い地域（学校、会社その他）は、現地訪問してウェブサイトの利用法などを伝える。	2021年8月-9月

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	プロジェクトリーダー 松尾佳美 オンライン、現地調査 本田志保 IT 申基皓 経理 平山昌子 事務 小川照子
(2)他団体との連携体制	1. 長崎大学大学院熱帯医学グローバルヘルス大学院生たち 長崎大学在籍留学生とその家族や友人とのコミュニケーションサポート 2. 長崎留学生支援センター (https://nagasaki-issc.org/) 長崎市内の留学生とのコミュニケーションサポート 3. WEGLOT (www.weglot.com) 多国語翻訳 4. Compact Impact (www.compactimpact.com) WEGLOTとリンクした多国語対応ホームページ制作のためのプログラミング
(3)想定されるリスクと管理体制	1. アンケート回答がなかなか集まらない場合、SNSを駆使してアンケートを拡散させる。 2. 翻訳するコンテンツの量が多すぎる場合、オンライン翻訳サービスを駆使して解決する。 3. ウェブサイトの閲覧数が増えない場合、サーチエンジンの最適化(SEO対策)や、関連施設や団体への広報活動を強化する。

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
新型コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、新型コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				